

9.23(祝sun) 山形由美フルートコンサート

開演/14:00 会場/弦楽亭 料金/3,000円

Program

I ヨーロッパの旅

エルガー:愛のあいさつ

ダウランド:デンマーク王のガリアード

ベルゴレージ:シチリアーノ

マレ:ラ・フォリア *フルートソロ

カタルーニャ民謡:鳥の歌

カタルーニャ民謡:聖母の御子・盗賊の唄 *ギターソロ

ロドリゴ:愛のアランフェス

グラナドス:アンダルーサ

ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ

イベール:パラボレス

～休憩～

I そして南米へ

ヴィラ＝ロボス:「ブラジル風パッサ 第5番」より アリア

マチャード:ショーロ

ベルナンブコ:ショーロ「鐘」 *ギターソロ

ピアソラ:タンゴエチュード 第4番 *フルートソロ

ピアソラ:「タンゴの歴史」より

1900年ボルデル

1930年カフェ

ビジョルド:エル・チョコロ

Profile



山形由美【フルート】

東京藝術大学卒業後英国へ留学。故小泉剛、サー・J・ゴールウェイらに師事。86年衝撃のデビュー以来ソロ公演、オーケストラとの共演などを重ね、TV・ラジオでも活躍。これまでに13枚のCDを発表。これまでの各地における2000回を超える演奏家活動や放送を通じてフルートに対する人々の関心を広く集め、愛好者を増やす。08年には、これまでキングレコードよりリリースされたCD9枚が相次いでデジタル・リマスターングによって完全復刻。2015年春には尚美学園大学客員教授に就任。デビュー30周年を迎えた2016年は、セルフ・プロデュースCD第3弾となる「Eternally～永遠のジゼル～」(レコード芸術特選盤)の発表、記念ツアーで注目を集め、パリ公演では大成功を取めた。都内にフルートサロン「メゾン・デュ・リエール」をオープンし、講座や個人レッスンをとおして、音楽のある豊かな暮らしを提唱している。とちぎ未来大使として活動中。
オフィシャルホームページ <http://www.yumi-yamagata.com/>
オフィシャルフェイスブック <https://www.facebook.com/yumi.yamagata.fl>



西村正秀【ギター】

71年生まれ。ギターを荘村清志氏に師事。日本大学芸術学部においてギターを原善伸氏に学び、94年卒業。同年からマドリッドへ渡り、荘村氏の紹介によりナルシソ・イエベス氏の最後の弟子として学ぶと同時に、スペイン王立音楽院にてガブリエル・エスタレージャス氏のもとでギターを学び、1997年同音楽院を卒業。マドリッド、ロンドンなどでリサイタル、また97年没後のイエベスを追悼する音楽祭「オマ・ナハ・ア・ナルシソ・イエベス(イエベス讃)」に8人の選ばれた弟子の一人として参加し注目を浴びた。帰国後はソロ、アンサンブル、オーケストラとの共演、録音などの分野で活躍中。現代ギター・レパートリーの紹介にも積極的に取り組み、2000年に東京にて新作委嘱初演4曲を含む現代作品のみによるソロリサイタルを、2004年、2005年には東京オペラシティでルネサンス期から現代に至るまでの広範囲にわたるレパートリーによるリサイタルを行い賞讃を集めた。

山形由美のフルートと西村正秀のギターによって、「ヨーロッパの旅」、「そして南米へ」と題してお送りする、二部構成のプログラム。

「ヨーロッパの旅」は、イギリスの大作曲家、エルガーの名曲「愛の挨拶」から始まる。自身の夫人との婚約時代に書いたというこの曲には、文字通り愛が溢れている。

16世紀から17世紀にかけて活躍した英国人ダウランドは、リュート奏者としてデンマーク王に仕えた時代があり、この典雅な「デンマーク王のガリアード」を残している。わずか26歳でこの世を去ったイタリアのベルゴレージ。その儂い生涯を彷彿とさせられる「シチリアーノ」は、胸を締め付けられるような哀切に満ちている。

フランスのルイ14世の宮廷でヴィオール奏者として活躍したマレは、映画「めぐり逢う朝」でも描かれ、一般的にも広く知られるようになった。イベリア半島を起源に持つとされるフォリアは、ゆったりとした3拍子の舞曲。「ラ・フォリア」は現在も様々な編成で演奏されているが、今回はフルートソロで奏される。

スペインからの独立問題で今も揺れるカタルーニャは、古くから独自の文化を持ってきた。民謡「鳥の歌」を国連本部で演奏し「私の生まれ故郷カタルーニャの鳥は peace、peace と鳴くのです」と述べたのは、カタルーニャ出身の大チェリスト、カザルス。

ギターソロで、カタルーニャ民謡を2曲。「聖母の御子」、「盗賊の唄」はスペインに留学した西村にとって、思い出深い曲である。

スペイン、ギターと聞いて思い起こされるのは、ロドリゴのギター協奏曲ではないだろうか。第2楽章はその美しさのあまり、多数編曲されてきた。今回は「愛のアランフェス」と題した、フルートとギターのためのバージョンをお聞きいただく。

ピアニストとして活躍した作曲家、グラナドスのスペイン舞曲集(全12曲)の第5番は「アンダルーサ」として知られる。山形はCD「エターナリー～永遠のジゼル」に、この曲をピアノ伴奏で収録している。

最後にフランスの曲を。印象派のラヴェルが作曲した「亡き王女のためのパヴァーヌ」はスペイン風な情緒を醸し出す名曲。

そして生粋のパリジャンでありながら、スペインの大作曲家ファリャを従兄弟にもつイベールの、情熱に満ちた「パラボレス」で第一部が締めくくられる。

第二部はヨーロッパから大西洋を越えて南米へと上陸し、民族色溢れる曲が取り上げられている。

南米というと、日本人も多く親しみを感じるのがブラジル。ブラジルでのクラシック音楽発展のため、多大な力を与えたヴィラ＝ロボスは、叔母の弾くパッサのピアノ曲に大きな影響を受け、「ブラジル風パッサ」という連作を書いた。その第5番「アリア」はチェロ合奏とソプラノのソロという独自なもので、ロボスの世界を満喫できる名作。歌詞のない歌の部分フルートが演奏する。

現代のブラジルで、マルチな才能を生かし活躍しているのがマチャード。ショーロは、ヨーロッパのセレナーデのようなロマンティックな曲想を持っていて、人気の高いジャンル。そのショーロのバイオニアと言われるのが、ベルナンブコ。ショーロ「鐘」は、ギターソロの重要なレパートリーとして愛されている。

南米の音楽として、大きな人気を博しているのがアルゼンチンのタンゴである。現代タンゴの巨匠、ピアソラが、フルートソロでタンゴのスタイルを学ぶための「タンゴエチュード」を書いている。その中の第4番は、練習曲とは思えない高い感覚を持つ1曲。タンゴの変遷をたどった組曲「タンゴの歴史」は、フルートとギターのレパートリーとしてだけではなく、ピアソラ作品の中でも最も人気が高い作品のひとつとなっている。全4曲の中から、軽快な「1900年ボルデル」、しっとりとした「1930年カフェ」が選ばれている。最後にクラシックなタンゴを。タンゴの誕生時に活躍したビジョルドの歯切れのよいナンバー「エル・チョコロ」で、演奏会の幕が閉じる。(山形由美)